



SHOUTO-GAKUSAI

公益財団法人
佐賀育英会 松濤学舎

松濤だより 第25号



松濤学舎HP

令和8年7月31日発行

自他の経験を集積し、自己の糧とせよ ー令和8年度 入舎式ー

4月5日、15名（男子6名、女子9名）の新入生を迎え、10名の来賓の列席のもと倉本一冴さん（2年）の司会進行により盛大に入舎式を挙行了しました。



初めに大坪信剛理事長から「入舎許可書」が手渡されました。そこには「あなたは本会奨学生として採用されましたので松濤学舎へ入舎することを許可します」と記されています。

佐賀育英会では、直接的な奨学金こそ現金を支給しているわけではありませんが、松濤学舎で生活すること自体が、経済的な支援（安価な住居費・食費等）やキャリア支援（語学力教室の開講や就職情報の提供等）を受けることを意味します。

そうした中であって、入舎生の皆さんには、まず何よりも「学業・研究に真剣に取り組むこと」が求められます。加えて、その支援への感謝の気持ちを行動で示すこと（For your SHOTO の精神の具現化）、いずれ社会に還元するのだという姿勢を持つこと（ふるさと佐賀、日本、世界のために働く覚悟）、模範的な行動をとること（後輩から憧れられる存在になること）などが期待されるのです。

そういう意味で、舎生の皆さんには自分自身の学生生活を充実させると同時に、折に触れ、松濤学舎で生活することの意味を自分に問いかけてほしいと思います。佐賀育英会は15名の新入舎生の皆さんの4年間の前途に幸多からんことを祈念し、応援します。

祝宴では、恒例の校歌斉唱で盛り上がりしました。1年生の中には一人で朗々と独唱する者もあり、物怖じしないたくましさを感じられました。また、校歌がなかったという1年生はフランス国歌をフランス語で独唱し、周囲を驚かせました。堂々として、いたずらに恥じない姿には好感が持てました。



また、保護者、舎友会、役員の皆様からたくさんの祝い酒、お祝い金、お祝いのお菓子、佐賀土産などをいただきありがとうございました。この場を借りてお礼申し上げます。

【祝辞】

公益財団法人佐賀育英会 理事長 大坪 信剛

東京は一流のもの、本物に触れられる場所です。「賢者は歴史に学び、愚者は経験に学ぶ」とはビスマルクの言葉。謙虚にたくさんの経験を積み重ね、学びを蓄積してほしい。そして、友人や先輩の経験を一つの歴史として集積し、本物に触れながら、それらを自分の糧にしてほしい。



公益財団法人佐賀育英会 評議会議長 城島 栄一郎

国外に目を向ければ不穏な国際情勢、国内に目を転ずれば少子高齢化、人口減少社会といった解決しなければならない問題は山積しています。そうした課題に向き合うべく、若いうちに力をつけるために①将来の夢、目標をもって失敗を恐れず挑戦する、②グローバル社会の中にあって幅広い視点をもつために人文科学、社会科学など幅広く学ぶ、③健康増進、体力は資本、食事に気を配り生活を整えるといった3点に注力してください。

舎友会 会長（公益財団法人佐賀育英会 監事） 伊藤 聖治

40年前の今日、自分も入舎しました。翌日は日曜。みんなで小金井公園に花見に行ったことが懐かしく思い出されます。そこでも自己紹介や出し物をして花見客の関心を引きました。佐賀県の名を連呼することにつながりが増した気がします。佐賀であること、同級生や先輩とつながること。これが寮の強みです。



【歓迎の言葉】 在舎生代表 寮長 森田 麗翔（3年）

15人の入舎生の皆さん、おめでとうございます。賑やかになりました。優しい先輩ばかりです。是非頼ってほしい。大学ではしっかり授業を受けて必須単位は落とさないように。寮のイベントには極力参加してほしい。4年間はあっという間です。

【お礼の言葉】入舎生代表 重松 咲奈（1年）

人と人が密接に結びついて東京での生活が充実することを確認しました。上級生には愛のある厳しさを感じています。これまでの歴史と伝統を引き継ぎ、新たな歴史を築いていけるようになりたいと思います。



【激励の言葉】

中村 哲（公益財団法人佐賀育英会 常務理事）

「銀行に口座開きて入学す 堀之内和子」資金を自己管理する。自立への第一歩としてこの句を紹介し祝福します。

中島 正剛（舎友会/株式会社TBM. CFO）

松濤学舎には仲間と語り合えるすばらしさがあります。①いろんな経験をしてほしい、②アイデンティティは生まれたところ、通った学校、務めた職場に培うものです。この寮を生まれた場所として学校として大切にしてほしい。③この寮で語り合える友、一生の友を作ってほしい。

古賀 千鶴（公益財団法人佐賀育英会 常務理事）

大学入試で達成感を味わったことでしょう。これからはこの達成感を更新する毎日であってください。

舎生の絆深まる！ -山手一周ウォーキング-

5月の連休明けの9日、恒例の山手線一周ウォーキングを実施しました。朝4時半過ぎに学舎を出発。5つのグループに分かれ、池袋、東京、渋谷の3駅から内回り・外回りのそれぞれのコースで歩き始めました。

各駅では写真撮影を楽しみ、定期的にゲームを挟みながら、苦しさを笑顔に変えて歩きとおしました。終了は21時前後。足が棒になるとはこのこと。歩くとは1歩1歩足を前に出す地道な作業の積み重ねなのだということ永遠の真理をあらためて実感したことでしょう。

憧れの東京の40キロを歩き切る

高井 恵太郎

山手線一周の当日、4時半に集合し、寮生全員で写真撮影をしました。大都会東京に憧れて上京した私は、

40キロ以上という、フルマラソン並みの距離を歩けるかという不安とともに、これから出会うであろう様々な街との出会いに期待して、一日が始まりました。

私たちのスタート駅は池袋、営業しているのか怪しい百貨店を背景に、写真撮影をし、一周を歩きだしました。新宿駅までの道のりは順調で、新宿駅で渋谷スタートと思われる他の班と出会い、合同で記念撮影をしました。朝ごはんが決まる最初のルーレットでは、みんながバナナの選択肢におびえる中で、無事に朝マックを選ぶことができ、おいしい朝ごはんを食べてエネルギーをチャージすることができました。2・3 回目のルーレットでは、ヤクルトとプロテインという“当たり”の選択肢を立て続けに引くことができ、歩きの疲労を十分にチャージしながら進むことができました。次のルーレットで夜の踊り子の動画撮影が当たると、居石船長の下、一体となって動画をとることができました。

山手線一周も中盤に差し掛かり、品川から東京駅までの高層ビル群に圧倒されながら歩き続けると、おなか



がすくようになり、昼ご飯はお寿司を食べることになりました。回転ずしチェーンに行くと思っていたところ、実際にはちょっと高めで雰囲気がいい寿司屋さんに連れて行ってもらえ、いい経験ができました。

だんだん日が暮れていく中で疲れも徐々にたまり、上野駅を過ぎたあたりから、班員の表情にも疲れが現れるようになりました。そんな中で迎えた最後のルーレットでは、ジャン負けが荷物持ちをするというもので、渡辺さんに全員の荷物を次の駅まで持つという苦行をさせてしまいました。自分は荷物がなく軽い足取りで次の駅まで進めました。感謝。

完全に日が暮れた20時、私たちのチームがようやくスタート地点の池袋に戻ってきました。40キロ以上という長い道のりを6人全員で歩き切ったことで、先輩とも打ち解けることができ、楽しく、貴重な一日を過ごすことができました。

「チーム松濤ウォーカー」

平井 結子

山手線一周の当日4時20分に食堂前に集合ということで眠い目をこすり急いで準備した。班ごとに点呼を取った後に寮の玄関で集合写真を撮りこれから始まる山手線一周にワクワクと山手線一周歩き切ることができるのかという不安な気持ちで寮を出発した。

私たちの班は山手線一周の出発地である東京駅へ向かうために電車に乗り、東京駅へ着いて班で撮影し山手線一周をスタートした。3 駅ごとに 1 回ルーレットを回すルールがあり私たちの班は東京駅から 3 駅目である浜松町駅で最初のルーレットを回す。先輩の運のおかげで美味しいうどんを食べることができた。それから歩き進めて 2 回目のルーレットを迎えた。結果はプリクラ撮影になった。プリクラ機を探しながら進もうということでもた歩みを進めた。4 回目のルーレットを回す。結果は頑張ってどうんの動画撮影だった。撮影の前に竹下通りで 3 回目のルーレットで出たプリクラを撮った。とても可愛く、疲れが少し飛んだ気がした。プリクラを撮った後は、クレープを買い先輩と分けて食べた。甘くとても美味しかった。クレープを食べた後に邪魔にならないように公園に移動して撮った。私は撮影係であり見ていたがネタに走りとても面白かった。撮影後また歩き進めた。新宿駅で写真を撮った後に韓国料理店で食事をした。私はプルコギ定食を頼んだと思っていたより量が多くとてもお腹いっぱいになった。



みんなから疲れが見えてきた。私も疲れてきており足が痛くなってきていたが私の班にはマイナスな言葉を吐くと100円罰金というルールがあり私は弱音を吐かぬように歩き進めた。途中コメダ珈琲に寄り休憩をした。先輩方はコメダ珈琲での休憩で全回復し元気になったのを見てとても驚いた。コメダ珈琲を出てまた歩き出した。8 回目のルーレットを回す駅に着きルーレットを回す。恋愛トークをすることになった。歩きながら先輩方と恋愛トークをした。意外な一面も知ることができ楽しかった。私は疲れが溜まり、足がとても痛かったが先輩方はとても元気で駆けっこをしており先輩方の体力の多さにとても驚いた。

山手線一周はとても楽しかったが疲れた。しかし、あまり関わりのなかった先輩方と濃密に関わることができ、親睦を深められてのではないかなと思った。上京してきてまだどこにも行ったことがなかったので知らないところに行け、リフレッシュをする良い機会になり、とてもよい経験になった。次も参加したい。

「チーム MORIGEN」

山口 陽波

5月9日の朝3時40分、アラームを3時50分に設定していたはずが、ドアの向こうで準備する寮生の音で目が覚めた。山手線一周に臨むためだ。

6時前に東京駅を内回りに出発し、初めて見る東京の街の景色や雰囲気への期待と、体がもつかどうかの不安を胸に僕の山手線一周は始まった。ルーレットで決まった朝ごはんはコンビニ飯。6人分の朝ごはんを2000円台に抑えたため休憩やお昼ご飯を豪華にできるようになり、軽い足取りで駅を回る。ルーレットにより駒込から巣鴨まで会話がオールイングリッシュになったのだが、東京から駒込まですごい口数で話していた寮長、森田さんが急に話さなくなった。そのため、英会話教室に参加することを勧めた。大塚駅で「チームおしゃまこと」と合流したあとにスタバで休憩することに。ここまでは良いペースだった。しかし、気づいたらスタバに入って一時間は経過している。少し足を速めて次の駅へ向かうが、お昼ご飯にスシローを選択し、再び一時間休憩を挟む。ここで先輩方からだいたい遅いペースだと言われて焦り始める。だが、疲労とまだ半分近く残っていることからくる精神的な辛さからなかなか速度が上がらない。代々木あたりで一橋大学の同じく山手線一周をやっている団体と出会ったのだが、とあることから気まずくなり、その団体に追いつかれない一心でこれまでよりも速く歩き、道中に動画撮影やモノマネを挟みつつ高輪ゲートウェイに到着。足が限界だったため駅構内の芝生に寝転んだ。最高に気持ちがよく、森田さんのピアノを聴きながら45分ほどみんなですわしていた。「チームおしゃまこと」と二度目の合流をして気持ちを切り替えて再び歩き始める。もうとっくに体は限界に達していたが、それでも先輩たちに引っ張っていただき、なんとか気持ちで歩き続けて21時30分に東京駅に到着。かなり遅めのゴールとはなったが、達成感で胸がいっぱいになった。



歩き続ける中でまだ話したことがなかった寮生と話したり、東京の名所を教えていただいたりなど、とても有意義な山手線一周を完走することができた。ぜひ来年も参加しようと思う。

山手線一周で見た東京

檜崎 悠矢

僕は恒例行事である山手線一周に初めて参加した。起きたのは3時半という普段からは考えられない時間で、まだ朝日も昇っていなかったが、それ以上に興奮していたのでそれほどきつくなかった。

スタートの渋谷駅は朝早くだったため人が少なく、イメージする渋谷とは別の町のような感覚だった。一駅先の恵比寿を過ぎ、目黒を過ぎ、五反田に着いてようやく朝食を食べることができた。早朝に起きてすでに数キロ歩いており、空腹だったこともあって食べ過ぎてしまった。消化が進まず、欲に任せて食べたことを後悔した。

大崎から品川にかけては、東京と聞いてみんなが思い浮かべるようなビル群が広がっていた。そこからは車線が多い大通りをまっすぐ歩いて行った。新橋駅からは飲み屋街が高架下に伸びており、正直匂いがきつかった。そのせいで体力を奪われてしまったのではないかなとも思う。神田駅では、ルーレットでダンス動画撮影をした。若干人目を感じたが、恥ずかしがるどころか自分から人に見せたいほどの出来だった。上野でほぼ半分を迎えると、さすがに疲れが出てきた。田端の辺りは、上野の周りとはまったく雰囲気が変わり、ただの住宅街という感じだった。山手線の周りはすべて大都会だと思っていたので意外だった。池袋を越え、高田馬場では、先輩から早稲田生の過酷な宴会について教えてもらった。



その先は足が痛むのを我慢しながらひたすら歩き続け、見覚えのある渋谷の景色が見えた時には、感動のあまり疲れを忘れて走り出しそうになった。20時頃にゴールすることができ、渋谷のスタート場所に戻ると、12時間以上歩いて戻ってきたのだと実感した。ゴールした

後はチームで晩ご飯を食べ、達成感をかみしめながら寮に帰った。

今回の山手線一周で東京を歩いてみて感じたことは、東京といっても同じようなビル群や繁華街、住宅街ばかりではなく、場所ごとに個性があるということだ。大きい街でもそれぞれに違いがあり、それを見比べるだけでも面白いと感じ、東京という場所により興味がわいた。

「チームおしゃまこと」

宮崎 笙伍

朝4時20分集合。起床時間が早すぎてみんなで眠い目をこすりながらぼーっとしながら駅まで歩いた。初めての山手線ウォーキングは渋谷駅スタートだった。昼間とは打って変わって人が少ない光景がとても印象的で、東京を歩いている感じが全くしなかった。最初のうちは、眠気や普段話さないようなチームメンバーと一緒にいる緊張からか話があまり弾まずうまくいくのかなと不安な気持ちがあった。3駅分歩いて最初のルーレット。朝食は